

令和 5（2023）年度 第 5 回四万十町立図書館協議会（要旨）

日 時：令和 6 年 3 月 21 日（木）13 時 30 分～15 時 00 分

場 所：四万十町役場東庁舎 2 階 多目的小ホール

出席委員：図書館協議会委員/竹村君子、刈谷明子、金子仁、武内文治

欠席委員：図書館協議会委員/小橋匠

事務局：味元課長（生涯学習課）、中村副館長（生涯学習課）、大河原館長、富永主査（生涯学習課）、長木（図書館）、山地（図書館）

文化的施設整備推進室：大元政策監、西尾次長

【議事次第】

1. 開会
2. 挨拶
3. 報告
 - (1) 文化的施設整備事業の中止について（文化的施設整備推進室）
 - (2) 令和 5 年度の事業について
 - ① 移動図書館車の試行運転について（資料①）
 - ② 図書館情報システムの構築後について（資料②）
 - ③ 令和 5 年度の事業等について（資料③）
 - ④ 十和分館検討委員会開催について（十和地域）
 - ⑤ その他
4. 協議事項
 - (1) 令和 6 年度の事業計画について
 - ① 移動図書館本格実施について
 - ② その他
5. その他
6. 閉会

資 料 「文化的施設整備推進事業資料」一式
「令和 5 年度第 5 回図書館協議会資料」

【会議要旨】

1. 開会
2. 挨拶
3. 報告
 - (1) 文化的施設整備事業の中止について（文化的施設整備推進室）
（大元政策監）（大河原館長）

資 料：「文化的施設整備推進事業資料」一式より説明、報告。

【質疑応答】

(竹村委員)

次第3.(1)について報告してもらったが、議会だより(2024年2月10日発刊「NO.70 四万十町議会だより」P15)12月の議会報告会(12月4日四万十町農村改善センター開催)への参加メンバーが、賛成の代表7団体7名、反対が1団体1名と不平等な報告会であったという書き方がされていた。このような書き方では、内容を知らない町民が読んだら不平等だと当然捉えてしまうと思った。また、役場職員の90%が反対ということだが、それについての回答は聞いたことがないが、公的な資料に根拠もなく載せてよいのか。それらについてはどうなるのか。このまま終わりではよいのか。役場より何か訂正資料は出せないのか。

(大元政策監)

組織的な話だと、「議会だより」は、議会側が出した資料のため、原稿内容については、議会の広報公聴委員会が作成しているので意見できない。ただ町長として議会に対して異議を申すことは可能かもしれないが、内部で話すことが必要である。職員のアンケートでも70%という数字は出だが、職員の70が反対なのか、回答した者が70なのかで違うし、どのくらいの回答数だったのかも公表されていないので訂正はできない。今後の対応は教育委員会となる。

(竹村委員)

町長に指摘をする機関はあるのか。

(大元政策監)

機関としてはない。

(刈谷委員)

図書館協議会として、「議会だより」のここはおかしいなど意見をだすことはできるか。

(味元課長)

教育委員会として意見を出すには、協議して決めてく必要がある。

(西尾次長)

行政側の方から、議会側が発行したものに物申すことは出来ない。住民側からは言えるがその情報を読んで住民がもつ解釈は仕方がない。

(竹村委員)

それは、選挙で有権者が、考える力を持っていて民主主義を実行してくれる町を引っ張ってくれる正しいリーダーを選んだという前提に立ってですよね。議員を選んだ町民にも責任があるが、町民は詳しい事情を知らないので、公報的なものを信じていく。

(金子委員)

行政から議会には言えなくても、この図書館協議会で各委員からこういう意見が出たと議事録には残る。議会だよりの意見の書き方、抽出のしかたがおかしい、根拠のない記事を正確に精査されていないものが記事になるのはおかしいと意見があったとこの図書館協議会の議事録に残しておきたい。

(武内委員)

議会が、内容を決めて発行していくので、図書館協議会でこんな意見があったと議員に伝えて、議会の中で話し合ってもらうなどして次号で訂正をしてもらうか、もう少し詳しく書いてもらうのはどうか

(竹村委員)

正式に図書館協議会から議会側に意見表明をするルートはないようですね。
他に質問がなければ先に進めます。

(2) 令和 5 年度の事業について

- ① 移動図書館車の試行運転について (資料①)
- ② 図書館情報システムの構築後について (資料②)
- ③ 令和 5 年度の事業等について (資料③)
- ④ 十和分館検討委員会開催について (十和地域)
- ⑤ その他

(大河原館長)

資 料：「令和 5 年度第 5 回図書館協議会資料」P1~8 より説明、報告。

【質疑応答】

(刈谷委員)

今年は年間を通して、移動図書館車を含めて各種機関との連携や多くのイベントへの出展など前年になかった動きが見られた。町民からも図書館の活動が見えて本が町民に届いているという声を聞く。移動図書館車の巡回場所施設の職員からは、利用者が直接本を選べるというだけでなく、施設の職員からも読み聞かせをしたいと考えているなどの話を聞き、地道な活動だが図書館や読書活動などが広がりよい連鎖ができていると感じた。

過疎債を図書館の今後の財源としても活用するのは可能と先ほどの説明で聞いたが、令和 10 年度以降の計画として、来年度新しくすることや今年したことを継続していくものはあるか。

(大河原館長)

ソフト面、図書館事業費は、町の財源を使用する。

(大元政策監)

過疎債は、基本的にはハード整備に充てることのできるため今回は、文化的施設を造る、移動図書館車の購入などに充てる予定だった。そのため現時点では予定はないが、施設の整備費や例えば移動図書館車をもう一台買うとなどには充てることは可能である。またソフト事業、図書購入費など理由付けがちゃんと出来れば充てることも可能である。

(刈谷委員)

では次年度では決まっていなくて良いか。カーポートの設置はどうか。

(大河原館長)

移動図書館車は、文化的施設が窪川にできるという想定から始まっているので、窪川の本館から運行が始まるということで試行運転が始まっている。その前提が変わったので、試行と同じく、窪川を拠点とするということが決定したら、カーポートを建てるという必要性が出てくるかもしれない。あるいは、コース決めの職員の都合なども考えて、例えば大正を拠点として運行するなど検討したうえで、必要に応じてということになるので今年度の当初予算には、カーポートを建てるという予算は組んでいない。

(刈谷委員)

何か動きがあるとしたら本格運行に移行してからということか。

(大河原館長)

はい。サービス計画と合わせて図書館をどうしていくのかを考えていく必要がある。

(刈谷委員)

ありがとうございます。このように変化が目に見えて、実際にできて実行していったら、そこに携わっている人たちの様子や姿がよく見えた一年でした。文化的施設ができていたらもっと、いい方に変わっていただろうなという確信にもなったので残念でたまらない。

(武内委員)

移動図書館車で、図書館活動が見える化できた。住民の方には本にふれられる機会ができて素晴らしいことだしこれからも期待したいが、職員の体制はどうか。サポーター制度で、月に1.2回などで運転手の応援を募り図書館に関わるチームを作っていくらどうか。これからの図書館活動の理解につながり応援の為にもなるし、新たな文化的施設の機運にもなると思う。

(竹村委員)

運転手のサポートがあるだけでも良いのでは。

(大河原館長)

保険などいろんな問題があると思うが、検討したいと思う。

4. 協議事項

(1) 令和6年度の事業計画について

① 移動図書館本格実施について

(大河原館長)

資料：「令和5年度第5回図書館協議会資料」P9より説明。

【質疑応答】

なし

② その他

(大河原館長)

生涯活動読書推進計画を再会する。学校図書館との連携、四万十町の学習環境をどう考えていくかという講演会「学校図書館最前線～子どもたちの未来を地域が支える～」(3/16)では、大きな反響を得た。どこの学校図書館を標準としていくのかは、この講演会をベースにおいていただきたい。

また、読書感想画・読書郵便作品展事業は、1年を通して各学校とやりとりを行なっているが、図書館だけの事業ではなく、他の機関との協働も考えていただきたい。以前は学校図書主任会と一緒に活動をしていたが、図書主任会がなくなってしまった。来年度に向けての意見があればお伺いしたい。

【質疑応答】

(刈谷委員)

読書感想画・読書郵便作品展で学校図書館協議会がすることは何か。

(大河原館長)

募集をお願いして、作品の応募をしてもらっている。

(事務局)

以前は、冊子を出す作業を一緒にしていた。

(竹村委員)

作業とは何か。

(大河原館長)

読書感想文の文集を一緒に作成していた。

(事務局)

それに読書郵便も載せていたので、図書主任の先生に図書館に来ていただいて印刷を一緒にして冊子を作成していた。

(竹村委員)

応募作品は授業での取り組みとなると思うので、学校にご意見を伺うかどうか。

(大河原館長)

ありがとうございます。

5. その他

(大河原館長) より説明

- ・来年度の図書館協議会委員の継続について
- ・退職者紹介：大河原館長、長木（図書館）

【感想】

(竹村委員)

様々なサービスを取り入れて、図書館行政の新しい動きを見せていただいたのに、非常に残念です。

(刈谷委員)

先日の「学校図書館最前線」の講演に参加させてもらった。学習指導要領に基づいて図書館がしていかなければいけないことを教えていただいた。学校図書館だからと、先生と図書館だけが知っていくのではなく、地域でも知っていくことが必要で現状を知ることができ、大変勉強できた。大河原館長には、四万十町に来ていただいて外の方達との繋がりができ、底上げができた。残念だがありがとうございます。

(金子委員)

館長が外から来て頂いたのに、文化的施設がこういう結果になって申し訳ない。関係者の皆さんは申し訳ないと言ってくれるのに、本当に謝らなければいけない者は謝らない。それを選んだ町民が悪い。せっかく種を蒔いて頂いたので頑張っていきます。

(武内委員)

図書を好きになるには、情熱がないといけないし情熱がある人が必要である。館長には熱量があり触発された。種を蒔いていただき感謝しています。

(竹村委員)

図書館職員さんは、図書館が好きで携わっていると推測をする。自分は若い頃図書館でいろんな経験をさせてもらった。図書館のおかげで今の自分がある。今の子どもたちにもそのような環境を

作りたい。

6. 閉会